



公益財団法人 日本生命財団

日本生命財団の概要

NIPPON LIFE INSURANCE FOUNDATION 2026.7



ごあいさつ

公益財団法人 日本生命財団（ニッセイ財団）は、日本生命保険相互会社が、創業90周年を迎えるに当たり、同社創業以来の共存共栄、相互扶助の精神に基づき、「人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資すること」を目的として、1979年7月に設立された助成型財団でございます。

とりわけ、「変化する時代・社会的要請に柔軟に対応して公益事業を進め、都市部のみならず日本全国を対象とした社会還元を行う」という機能・役割を託されました。

以来、この目的と付託された機能・役割を達成するため様々な検討を重ね、主に児童・高齢・環境の三分野を中心として、以下の6つの助成事業を進めております。



これからも、新たな時代の動きを踏まえながら、真に豊かな社会づくりに役立つことを目指し、努力を続けて参ります。

引き続き皆様方の深いご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



会長 山極 壽一



理事長 三笠 裕司

日本生命財団の助成事業の概要

▶ 助成事業

児童・高齢・環境の三分野を中心に、6つの助成事業を実施しております。児童・少年の健全育成助成(物品助成)、および生き生きシニア活動顕彰の2事業は、「都道府県助成領域」として全都道府県のご協力を得て進めております。

領域区分	助成事業名称	概要	関連ページ
都道府県助成領域	児童・少年の健全育成助成 (物品助成)	子どもの健全育成に向け活動する地域の団体へ必要な物品を助成	P3
	生き生きシニア活動顕彰	高齢者が主体となる地域貢献活動を顕彰	P6
研究・地域活動助成領域	児童・少年の健全育成助成 (実践的研究助成)	子どもの健全育成に資する研究に取り組む研究者等への研究助成	P4
	高齢・地域共生社会助成	高齢・地域共生社会の課題解決に資する活動・研究に助成	P5
	環境問題研究助成	環境問題研究に取り組む研究者等への研究助成	P7
	出版助成	環境助成の成果出版と博物館展示案内助成	P8

▶ 助成実績

1979年の財団設立以来、累計で22,628件、総額186億3,900万円を助成しております。

助成事業名称	2025 年度実績		累計実績	
	件数	金額	件数	金額
児童・少年の健全育成 (物品助成)	322件	1億5,719万円	15,009件	92億7,700万円
児童・少年の健全育成 (実践的研究助成)	12件	1,976万円	81件	1億1,600万円
高齢・地域共生社会助成	18件	2,472万円	660件	17億6,600万円
生き生きシニア活動顕彰	229件	1,145万円	3,689件	1億8,400万円
環境問題研究助成	22件	4,000万円	1,381件	30億9,200万円
出版助成	3件	750万円	402件	13億9,800万円
合計	606件	2億6,062万円	22,628件	186億3,900万円

(累計実績の金額は百万円未満切り捨て)

助成趣旨

当財団は、活力あふれる真に豊かな社会の実現にむけて、次代になう子どもたちがたくましく心豊かに成長することをめざしております。

児童・少年の健全育成には、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育んでいくことが必要になっています。

そこで、当財団は、地域活動の一環として定期的・継続的に実施している子どもたちが行う自然体験・生活体験活動、仲間づくりや文化の伝承活動、地域の子育て支援活動に対して、都道府県知事のご推薦に基づき助成し、活動の輪を広げてまいります。

助成概要

上記趣旨のもと、活動に常時・直接必要な物品の助成を行っております。

分野	1 自然と親しむ活動 2 異年齢・異世代交流活動 3 子育て支援活動 4 療育支援活動 5 フリースクール活動
金額	30万円～80万円(物品購入資金)
対象	上記の活動に定期的かつ日常的に継続して取り組んでいる民間の団体

助成物品の例



助成団体活動の様子



助成実績

2025年度	累計
322件 1億5,719万円	15,009件 92億7,700万円

年間スケジュール

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
募集告知 都道府県にて 申請受付					選考 委員会	理事会にて 助成先 決定	決定通知		贈呈式	

詳しくは
日本生命財団HP
児童・少年の健全
育成助成（物品助
成）へ！



助成趣旨

子どもを巡る社会的課題が広範、かつ複雑化するなか、健全育成に資する実践性高い研究の役割・重要性が高まっています。

当財団は設立40周年を機に、研究者と現場の専門職等実践家の協働による実践的研究を対象に、2020年度より助成を開始しました。

助成概要

上記趣旨のもと、「子どもを巡る『真のウェルビーイング』の探求」を基本テーマに、社会実装をめざす研究に対して助成を行っております。

分野	1. 健全育成のための教育・保育、周到な準備を図る分野 （教育・保育、予防的対応等を図る分野） 2. 健全育成にとって喫緊の対応を要する分野 （療育的対応等を要する分野）	
期間	2年間	1年間
金額	最大400万円	最大100万円
対象	研究者、または実践家 （1年助成は大学院博士課程在籍者も対象）	



▲スキルアップ講座イメージ

2024年度助成

「障害のある子どもの食の発達困難を支える人材育成プログラム開発」
栄養教諭を主な対象に「現代の子どもの食の発達困難と個別支援に関するスキルアップ講座」を企画・開催し、受講者への質問紙法調査を通して、障害・疾病等を有する子どもの食の発達困難と発達支援に関わる栄養教諭の専門性育成の課題を明らかにしました。
本研究で得られた成果をもとに啓発冊子を作成し、文部科学省等に配布予定である他、書籍化も含めて準備中です。

2025年度助成事例

2年助成

代表研究者	研究テーマ
氏間 和仁 広島大学 大学院 教授	読み困難児の読書機会を豊かにする 図書館活動の検証と普及
竹田 伸也 鳥取大学 大学院 教授	子どもが援助要請しやすい地域社会の構築

1年助成

代表研究者	研究テーマ
石田 佳織 筑波大学 大学院 博士後期課程	子どもの言動を通じた 園外保育環境の発展に関する研究
田北 雅裕 九州大学 大学院 専任講師	里親支援センター設置後の 市民協働型里親養育支援のあり方
永井 友基 武庫川女子大学 大学院 博士後期課程	“きょうだい間性虐待”への対応における アセスメントモデル開発

(注)上記含む計12件に助成。代表研究者の所属・役職は助成申請時。

助成実績

2025年度	累計
12件 1,976万円	81件 1億1,600万円

年間スケジュール

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
公募告知				選考 委員会	理事会にて 助成先 決定						
公募受付期間			選考		選考結果 通知			助成開始	ワークショップ 参加者募集期間		ワーク ショップ 開催

詳しくは
日本生命財団HP
児童・少年の健全
育成助成(実践的
研究助成)へ！



助成趣旨

高齢・地域共生社会助成は、1982年度より将来の高齢社会を見据えた先駆的・実践的な事業への助成に取り組んでまいりました。「人生100年時代の社会システム・持続可能な地域づくり」に向けては、コミュニティを基礎にした包括的支援体制の構築、地域共生社会の実現が必要です。当財団はこれらに対する活動・研究に対して助成を行っております。

助成概要

上記趣旨のもと、「地域福祉チャレンジ活動助成」「(若手)実践的研究助成」の2つのプログラムにより、これからの地域社会づくりの推進に資する助成を行っております。

プログラム	地域福祉チャレンジ活動助成
期間	2年間
金額	最大400万円(1年最大200万)
対象	多様なステークホルダーと協働で活動する団体

実践的研究助成	
プログラム	実践的課題研究 若手実践的課題研究
期間	2年間 1年間
金額	最大400万円(1年最大200万) 最大100万円
対象	研究者、または実践家 45歳未満の研究者または実践家

年間スケジュール

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
公募通知				選考委員会		理事会にて 助成先 決定	シンポジウム・ ワークショップ 参加者募集期間	シンポジウム・ ワークショップ 開催			シンポジウム ワークショップ 記録集発行
公募受付期間			選考			選考結果 通知					

詳しくは
日本生命財団HP
高齢・地域
共生社会助成へ！



2025年度助成事例

地域福祉チャレンジ活動助成

助成先団体	活動テーマ
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会	「地域福祉」でまち創り！～地域の居場所発、みんなで創るまち～
医療法人社団同善会	みのる一む・まちの緑側プロジェクト
NPO法人老いと病いの文化研究所われもこう	ホームホスピスでの看取りからつながる「暮らしの保健室まる」

実践的研究助成

代表研究者	研究テーマ
野呂 千鶴子 国際医療福祉大学 大学院 医療福祉学研究科 教授	認知症があっても災害時に避難できる安心安全なまちづくりモデル
長谷川 美智子 公益社団法人京都保健会 吉祥院病院 副看護部長	高齢患者への住民ボランティアによるせん妄・認知症ケアの普及

(注)上記含む計18件に助成。代表研究者の所属・役職は助成申請時。



ホームホスピスでの看取りからつながる「暮らしの保健室まる」の概要
当助成事業は、法人が運営する「暮らしの保健室まる」の相談・交流・研修等の活動継続による住民の孤立化防止、介護の重度化予防とボランティア、ケアスタッフの育成に向けたゆるやかなつながりづくりをすすめる事業です。「暮らしの保健室まる」をプラットフォームとして、地域の高齢者のひきこもり防止のみならず、認知症、がん、神経難病等を患い地域で暮らす当事者及びその家族を含め、近年希薄化する地域のつながりや支え合う関係の再構築を目指しています。

助成実績

2025年度	累計
18件 2,472万円	660件 17億6,600万円

顕彰趣旨

高齢社会を迎えるなか、元気で活力にあふれた高齢者の地域貢献活動が注目されています。当財団では、高齢者が主体となつて行う地域貢献活動に対して、都道府県知事のご推薦に基づき顕彰し、地域活動の輪を広げてまいります。

顕彰概要

分野	1. 児童・少年の健全育成活動 (登下校時見守り活動、居場所づくり等) 2. 障がい者支援活動 (手話・点訳・朗読ボランティア活動等) 3. 高齢者支援活動 (高齢者の見守り活動、生活支援活動等) 4. 地域づくり活動 (環境美化・清掃活動、環境保護活動等)
顕彰	5万円
対象	地域の高齢者が主体となつて行う上記活動に取り組む団体

年間スケジュール

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
募集告知 都道府県にて 申請受付					選考 委員会	理事会にて 助成先 決定	決定通知		贈呈式	

詳しくは
日本生命財団HP
生き生きシニア活動
顕彰へ！



INFORMATION!

団体の活動を詳しく紹介した情報誌Fu-mi(ふみ)をご覧ください！

「児童・少年の健全育成助成(物品助成)」 「生き生きシニア活動顕彰」の助成制度・団体の活動内容を紹介した情報誌です。 詳細はこちら→



各都道府県で贈呈式・懇談会を開催しています！

都道府県の協力を得て進めております「児童・少年の健全育成助成(物品助成)」 「生き生きシニア活動顕彰」については、5月～7月頃に贈呈式・懇談会を全国の各都道府県庁等で開催しております。

この贈呈式・懇談会は、都道府県関係者のご参加のもと、地域に根差した地道な活動を続けてこられた団体の皆様の讃える場となっております。懇談会では、助成・顕彰を受けられた皆さまから、日ごろの活動の様子や率直なご意見を伺っております。



贈呈式の様子(兵庫県)



懇談会の様子(大阪府)

助成趣旨

当財団では、21世紀の社会が活力あふれる真に豊かな社会となるためには、調和のとれた社会・自然環境に支えられた、活力と創造性ある人間性豊かな生活環境を一層確立していくことが重要と考えております。そこで、豊かな人間生活にとって欠かせない基盤の一つである、環境の改善・充実に資する研究に対し、助成を行っております。

助成概要

上記趣旨のもと「人間活動と環境保全との調和」を全体のテーマとし、「学際的総合研究助成」と「若手・奨励研究助成」の2種類の研究助成を行っております。

学際的総合研究助成については、その時々々の環境問題をめぐる社会的な重要度等に対応するよう募集テーマを設定しております。

プログラム	学際的総合研究助成	若手・奨励研究助成
募集テーマ	●持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成 ●自然再生による持続性ある地域づくりと生物多様性の回復	助成趣旨を踏まえた研究(特段のテーマ設定はありません)
期間	2年間	1年間
金額	1,000万円~1,500万円	50~150万円
対象	多方面・多分野の大学研究者と実践家と協働して推進する研究	45歳未満(学生・院生は除く)

年間スケジュール

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
公募通知				選考委員会1回目	選考委員会2回目		理事会にて助成先決定		ワークショップ参加者募集期間	ワークショップの開催	
公募受付期間		選考					選考結果通知				

2025年度助成事例

学際的総合研究助成

代表研究者	研究テーマ
赤石 大輔 大阪産業大学 デザイン工学部・准教授	生物文化多様性を活かした能登の里山復興のための参加行動型研究

若手・奨励研究助成

代表研究者	研究テーマ
伊藤 舜 静岡大学 学術院理学領域・助教	海洋島の無脊椎動物群集に迫る外来生物・食性解析による影響評価
金澤 弓子 東京農工大学 地域環境科学部・准教授	都市緑化における常緑広葉樹の適応可能性評価

(注)上記含む計22件に助成。代表研究者の所属・役職は助成申請時。



2025年度助成「生物文化多様性を活かした能登の里山復興のための参加行動型研究」の概要
石川県の奥能登地域は、2024年1月の「令和6年能登半島地震」および2024年9月の「令和6年奥能登豪雨」により多くの住民が被災し、広大な農地を含む里山里海が被害を受けました。本研究は、地域と研究者の協働による参加行動型研究を展開することで、能登の里山里海の再生の一助となることを目指します。これまでの研究の活用により、里山環境が比較的良好であった2010年前後と、震災後の生態系(生物多様性)との比較が可能となり、データの裏付けを持って地域が求める未来の里山の姿を提言いたします。

助成実績

2025年度	累計
22件 4,000万円	1,381件 30億9,200万円

詳しくは
日本生命財団HP
環境問題助成へ！



助成趣旨

助成成果の社会還元や地域文化の振興等を目的に、出版助成を行っております。

現在、下記の2つの助成プログラムを実施しております。

1.環境問題研究助成成果発表助成

環境問題研究助成の研究成果の普及を目的に、過去の研究助成対象者に対して、優れた研究結果の成果発表としての出版物の発刊に対して助成を行っております。

2.博物館展示案内出版助成

地域文化の振興や青少年の文化教育に資するため、各地の博物館の協力を得て展示案内書を出版し、当該博物館をはじめ所在地県内の小・中・高等学校・図書館等に寄贈しております。

出版助成による刊行書籍



環境問題研究成果出版(累計61書目)



博物館展示案内出版(シリーズ82作・67館)

助成実績

2025年度	累計
3件 750万円	402件 13億9,800万円

INFORMATION

博物館展示案内出版助成のあゆみ

博物館展示案内出版助成は1983年度より開始されました。

当助成は、博物館活動の支援を通じて地域文化振興に協力するとともに、地域の児童・少年の文化教育に資することを目的として実施され、小・中学生にも理解しやすい展示案内の制作をめざしております。

2025年度までの累計では、右図の通り、全国各地の67館が助成対象となっており、再版を行った館も少なくありません。

当助成を通じた取組みは、1994年のメセナ大賞で「地域の文化の振興、普及そして教育に貢献している」と評価され、メセナ普及賞を受賞いたしました。また、2018年には公益財団法人日本博物館協会から「永年にわたり日本全国の博物館の振興に多大な貢献を行った」との評価をいただき、「博物館協会創設90周年特別表彰」を受賞いたしました。



2025年度までの助成先博物館の分布



2025年度贈呈式
(於：陸前高田市役所 2026/3/13)

「児童・少年の健全育成助成(実践的研究助成)」 「高齢・地域共生社会助成」 「環境問題研究助成」では、シンポジウム・ワークショップを通じて、成果報告を行い、成果の社会還元を行っています。



助成事業名	内 容
児童・少年の健全育成助成 (実践的研究助成)	第4回実践的研究助成ワークショップ(80名参加)(2025/11/15開催) 「障害のある子どもの食の発達困難を支える人材育成プログラム開発」を含め9名の発表
高齢・地域共生社会助成	第32回高齢社会ワークショップ(260名参加)(2025/12/12開催) 「地域の人材を用いた有効な介護予防プログラムの確立」 「芸術療法による若年性認知症患者の行動・心理症状の緩和と家族支援」 を含め7名の発表
	第38回高齢社会シンポジウム「高齢社会を共に生きる」 -私たちのまちの地域共生社会づくり-(600名参加)(2026/12/13開催) ●講演:「2040年を展望し、地域共生社会を考える」 伊原 和人氏(厚生労働省 厚生労働事務次官) ●「団地を中心とした共生のまちづくりプロジェクト」、 「認知症カフェ動画プロジェクト『まちかびくチャーズ』」を含め4団体の発表 ●総合討論

INFORMATION!

2025年度出版書籍(出版助成)



大津波と
森里海まちづくり
被災地に湿地を再生させた気仙沼・舞根
横山 勝英(著)
東京大学出版会

大津波と森里海まちづくり
横山 勝英 編
東日本大震災により被災する防潮堤建設を受け入れず環境との共生を進めてきた気仙沼市舞根地区をフィールドに、我が国で失われつつある塩性湿地の環境機能評価と、災害に強い森里海まちづくりの実現に向けた協働のあり方、に視点を定め進められてきた研究をまとめた一冊。



「陸前高田市立博物館」展示案内
ふるさとのかからを未来へ
陸前高田の豊かな海の恵みを受けた古代からの人びとの暮らしや、津波で流され傷ついた文化財を関係者・地元住民が一体となって救出し修復していく道のり、等をわかりやすく解説した展示案内。

理事・監事・評議員名簿

理事	評議員
会長 山極 壽一 京都市大学 名誉教授 総合地球環境学研究所 所長	石川 幹子 東京大学 名誉教授 中央大学研究開発機構 機構教授
代表理事 三笠 裕司 日本生命保険相互会社 副会長執行役員	尾崎 裕 大阪ガス株式会社 相談役
代表理事 水野 充彦 日本生命保険相互会社 代表取締役社長 社長執行役員	上出 恵子 活水女子大学 名誉教授
朝日 智司 日本生命保険相互会社 代表取締役社長 社長執行役員	櫻田 典子 弁護士
大原 謙一郎 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館 名誉館長	澤 芳樹 大阪大学 名誉教授 大阪けいさつ病院 理事長・総長
倉石 哲也 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 教授	清水 博 日本生命保険相互会社 代表取締役会長
小林 哲也 近鉄グループホールディングス株式会社 相談役	杉村 裕史 企業年金ビジネスサービス株式会社 代表取締役社長
白澤 政和 国際医療福祉大学大学院 教授	中村 吉隆 日本生命保険相互会社 取締役 専務執行役員
武内 和彦 公益財団法人地球環境戦略研究機関 理事長 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授	原田 正樹 日本福祉大学 学長 学校法人日本福祉大学 副理事長
玉越 良介 株式会社三菱UFJ銀行 名誉顧問	鷲谷 いづみ 東京大学 名誉教授
鳥井 信吾 サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副会長	
監事	
櫻井 美幸 弁護士	
宮崎 まゆ子 日本生命保険相互会社 取締役 監査等委員	

2026年7月現在 五十音順(敬称略)



公益財団法人 日本生命財団

所在地	〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目1番7号 日本生命今橋ビル4階
連絡先	TEL.06-6204-4011~4 FAX.06-6204-0120
URL	https://www.nihonseimei-zaidan.or.jp
助成プログラム	児童・少年の健全育成助成(物品助成) 児童・少年の健全育成助成(実践的研究助成) 高齢・地域共生社会助成 生き生きシニア活動顕彰 環境問題研究助成 出版助成

詳しくは
日本生命財団
公式HPへ!

